

中学校の理科の先生方へ



今年の高校入試を分析したら、こんなことがわかりました！

合格者の理科の平均点は、57.8点

正答率が高かった問題は、生物的領域の問題です。特に、科学的な用語や法則などの基礎的・基本的な知識については、定着が図られています！



正答率<sup>( )</sup>の低かった問題を見てみましょう！

< 物理的領域 > では...

既習事項と与えられた情報を活用して、熱量の差を答える問題が、26.2%  
動滑車を用いた実験について、物体の重さを答える問題が、30.6%  
与えられた情報を活用して計算する力が不足

基礎的・基本的な知識や概念を活用して、計算をする機会を設けましょう！

< 化学的領域 > では...

純物質と混合物の融点における温度変化の違いを説明する問題が、38.1%  
化学反応式を化学式を使って適切に表す問題が、45.7%  
塩の性質を基に、実験の結果を予想し、説明する問題が、45.9%  
化学式や化学反応式等についての理解、様々な化学現象を文章で説明する力が不足

- ・化学式や化学反応式について繰り返し学習する機会を取り入れましょう！
- ・科学的な用語や概念を使用して考えたり説明したりするような学習を充実させましょう！

< 生物的領域 > では...

体のつくりと生活場所との関係を適切に判断する問題が、32.0%  
植物の体のつくりの特徴に基づいて、分類する問題が、48.0%  
生物の体のつくりと生活場所との関係、植物のなかま分けをする力が不足

生物の体のつくりやはたらきについて、身近な生物との関連を図りながら、話し合ったり、説明したり、まとめたりする機会を設けましょう！

< 地学的領域 > では...

月の位置と形の変化について、適切に判断する問題が、26.5%  
実験の結果を分析、解釈し、データを基に湿度を求める問題が、29.6%  
天体の動きや見え方について理解する力、空気にふくまれる水蒸気量や湿度を計算する力が不足

- ・天体の動きや見え方について、長期的な観測や新聞記事の利用などにより、日頃から考える機会を設けましょう！
- ・空気中にふくまれる水蒸気量や湿度の計算について習熟を図りましょう！



日々の授業が変われば、生徒の学力は身に付きます！

各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！

詳しい分析は、学力検査問題と報告書を見てくださいね！

( )正答率については、合格者5,037人の中から、無作為に抽出した650人(12.9%)分のデータです。

